

外傷専門医 何故必要か？（国民の方々に）

現在、交通事故や労働災害、暴力事件、自然災害などにより、重症外傷（大けが）を被る患者さんが後を絶ちません。わが国では、けがにより年間約 2,000 万人が病院を受診し、約 120 万人が入院し、2 万人以上の方が命を落としています。また、多くの方が後遺症で苦しんでいます。このため、大けがの診療に精通した医師の存在が不可欠です。

大けがの患者さんでは、一か所とは限らず複数の部位にけがをしていることがよくあります。また、個々のけがの治療よりも命を救うことが優先されます。このため、外科、整形外科、脳神経外科などの専門医とともに、各分野に精通し、診断・治療の優先順位を判断し遂行できるリーダーが必要になります。この役割を担う医師が外傷専門医ですが、その数は必ずしも十分ではありません。

外傷専門医となるには、救急科、外科、整形外科、脳神経外科など基本領域のいずれかの専門医を取得後、さらに臨床経験を積み、より高度な知識と技能を身につけることが求められます。日本外傷学会は、国民の皆様がどこで大けがをされても、質の高い治療がうけられるように、優れた外傷専門医を育成していく必要があると考えています。